



あけましておめでとうございます。今年もクマタカ通信は揖斐川砂防出張所管内の工事状況や越美山系砂防事務所が行っている事業や防災・広報活動などに関すること。また、地域や季節の話題等についてお届けします。どうぞよろしくお願いいたします。

### 平成25年 新年のごあいさつ

新年のあいさつを申し上げます。

皆さまには、さわやかな新春をお迎えることと心からお慶び申し上げます。

一昨年と同様に昨年も九州北部豪雨をはじめ全国各地で災害に見舞われた年でありました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。また、一刻も早い復旧・復興のためご尽力されている方々など多くの皆様に深く敬意を表します。



越美山系砂防事務所がある揖斐川上流域は、急峻な地形、活断層が集中し脆弱な地質に加え、多雨な気象条件と相まって、大規模な土砂災害が発生しやすい地域となっております。事務所としては、大規模な土砂災害に備え、関係機関と

連携を強化し、監視・観測体制の整備や防災訓練等のソフト対策を実施するとともに、被害を軽減するための砂防施設の整備を推進していきたいと考えております。

また、砂防施設の整備方針としては、災害時要援護者施設や避難地・避難場所、災害時の防災拠点(旧役場等)の保全する砂防堰堤等の整備を重点的に進めるとともに、昨年10月に発表した深層崩壊の恐れが高い溪流に対しても重点的に対策をおこなっていききたいと考えております。

事業推進にあたっては、綱紀の厳正な保持や法令遵守を念頭に置き、豊かな自然環境や地域の歴史・文化等に配慮しつつ、安全に砂防工事を実施していきたいと考えておりますので、本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

越美山系砂防事務所長 佐藤 保之

今年巳年です。この地域には、古来より龍や大蛇にまつわる多くの伝承が残されています。龍蛇は水を守る神であり、龍神をおこらせると大雨となり土砂災害を起こすので、龍神を崇め鎮めよとの教えでした。巳年にちなんで本巣市根尾板所(ねおいたしよ)に伝わる伝承を紹介します。

### つるべさげ (口頭伝承)

昔 板所村字上段の地に、七右衛門という者あり、彼は怪力豪勇をもって知られていた。いつも熊や猪などの大獺を誇っていた彼は、ある日、尾砂谷の山上(水無山)で一休みし、腹ごしらえをして立ち上がり四方を眺めているうちにふと一つの池を見た。

その池のほとりの大松の枝に大きな猿が一匹日向ぼっこをしていた。七右衛門はすかさず弓に矢をつがえて胸板を射抜いた。ところが猿は木から落ちると同時に大蛇に変身して池の中に潜りこんでしまった。

一天俄にかき曇り、生温かい風が吹いてきて、大粒の雨がパチパチと激しい音を立てて降ってきた。池のまんなか大蛇が姿を現し、鎌首をもたげて七右衛門を睨みつけた。彼はおのき後退りし一目散に逃げて西板屋のお宮の門にたどりついた。すると一瞬ピカッと稲妻があり物凄い雷鳴のあと、天気はもとの静けさに帰った。悪夢から醒めた思いで、さては雷大明神の恩恵かと神前に礼拝した。

それから幾日かすぎて、或る日、板所村南方の谷に大蛇が出た(山抜け・ジャヌケ)という報を聞いた七右衛門は、七難の小山で待つうちに大蛇の巨体を発見した。すかさず一矢を放ったが大蛇は動かず、矢は南方へ飛んで平野の神坂という処の松の木にささった。二の矢を放った。矢は向きを変えて北方に飛び洞戸谷(門脇の洞川)清流の畔に落下した。その後、その谷を「蛇抜け谷」と呼ぶ様になった。また、

その時大蛇が子供を生んだため今でも馬栓棒ほどの「うわばみ」が生息しているという。

七右衛門は最後にはなった矢が落下した洞戸清流の畔を永住の地と定め、そこに屋敷を構えたという。同家の街道に面した榎の大樹に妖怪が出る噂がたった。深夜になると、一の枝から井戸の釣瓶の如く下りて来て通行人を引き上げて食ってしまうというのである。村人はこれを「つるべさげ」と呼んで、往昔七右衛門が退治した大蛇の怨霊ではないかと恐れて、深夜はこの通行を絶対にしなかったという。

その後昭和の初め頃迄は、村の子供達が夕方になると「それつるべさげが出るぞ」といって一斉に帰ったという。

この伝承は、門脇の洞川と水無山に伝わる龍神信仰と関連し、板所の八千代橋近くの呼称「ジャヌケ」の地で山抜け(土砂崩壊)した現象がかたられている。

出典：根尾ふるさと地名集  
(根尾ふるさと地名集 編集委員会)



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。

また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局  
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所  
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3  
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626  
E-mail: [ibigawa-sabo@beach.ocn.ne.jp](mailto:ibigawa-sabo@beach.ocn.ne.jp)